テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

# FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　ジョブクラス編

## ナイトクエスト

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

# 自由騎士の誓約

剣術士ギルド受付
ルルツ ： ◇◇◇さん、ようこそぉ！　い～ところに、いらっしゃいましたぁ！　さらに強くなれちゃう「耳寄り情報ぉ」があるんですぅ！
近衛兵団「銀冑団」が、な～んと、なんとぉ！　「ナイト」の技を「解放ぉ！」しはじめたんですぅ！
ナイトの技は、近衛兵団「銀冑団」の専売特許でしてぇ。「銀冑団」に入った凄腕の近衛騎士じゃないとぉ、使えないんですぅ。
でも～「銀冑団」に入るときにぃ～ウルダハ王家に忠誠を誓うんですぅ。つまりぃ～冒険、副業いっさい「禁止ぃ！」みたいな。
それがぁ～、「銀冑団」に入らなくても、「ナイト」の技を覚えられちゃうんですからぁ～出血大サービスですぅ～！
このお宝チャンスを、モノにしない手はないですぅ！　よかったら、このルルツが受付窓口を教えちゃいますよぉ？
「ロイヤル・プロムナード」にいる近衛兵団「銀冑団」総長の「ジェンリンス」様に、「ナイト」への熱い思いをぶつけてくださぁい！

ジェンリンス ： ……いかにも、私が近衛兵団「銀冑団」総長ジェンリンス。貴公も、誇り高き「ナイト」を目指し、わがもとへ？
ならば、貴公の名を聞こう。
……◇◇◇か、よい名だ。早速だが、ナイトを志す以上……貴公にも、その心得を肝に銘じてもらいたい。
ひとつ、ナイトとは主君に忠節を誓う者なり。
ひとつ、ナイトとは主君の剣となり、盾となる者なり。
ひとつ、ナイトとは主君の国土と民を守る者なり。
……己のために剣を振るう。傭兵や剣闘士とは、決定的に動機が異なる存在だ。その点をはき違えぬよう、くれぐれも心得よ。
そんなナイトが扱う「戦技」は、600年という長き歴史のなかで、「銀冑団」の近衛騎士たちが編み出し、継承してきたもの。
「銀冑団」は、ウルダハ王家を守護する近衛兵団。王家に仕える騎士のうちでも、特に忠誠心厚く、
剣の腕に優れる者のみが任じられてきた。
だが、「銀冑団」の栄光の日々も今は昔……。近年、兵団の規模は縮小を続け、団員の士気は低下。
ウルダハ王宮の警護すら、傭兵を雇わねばならぬ……。
すべては逆賊……いや、ある者が残した歪みのため……。そこで、実力を備えた冒険者を見出し協力を仰ぐという、
苦渋の決断を下さざるをえなかったのだ。
この見返りとして、私がナイトの「戦技」を伝授する。王家と契約を結ばぬ「自由騎士」の自称も認めよう。
ただし、まず、それに値する実力を示してもらうぞ。南ザナラーン「リトルアラミゴ」南にある廃墟にて、
我らが設置した「鉄製のかがり」に火をともせ。
その火に引き寄せられた魔物を討伐し、「亡者の遺骸」を「鉄製のかがり」にくべ、「亡者の遺灰」を討伐の証として私に提示せよ。
さあ、未来のナイトよ……　貴公の気概と、剣の腕を見せてくれ！！

？？？？ ： こんなところで、亡者退治とは……　貴君も、「銀冑団」にナイトの戦技を求める者か？
誤解してはならん。「戦技を体得すればナイトとなる」というわけではない。ましてや、貴君がまとう権威や武具によるものでもない。
「自由騎士」たる、この老いぼれから、ひとつ忠告だ。「意志縛る枷を断つ剣を得よ」……　さすれば、己の「騎士道精神」が拓けよう。
そうだ、ひとつ頼みがある。このクリスタルを総長殿へ渡してくれ。
……なに。貴君の剣さばきを見て、ある男を思い出してな。
真実を見極めんとする、いい眼をしておる。貴君なら、立派な「ナイト」となろう。精進に励み、常に人の光であれ！

ジェンリンス ： 亡者を討ち取った証……確かに受け取った。貴公の実力は、今、ここに証明された。早速、最初の戦技を伝授しよう。
貴公ほどの腕前ならば、この戦技をすぐに使いこなせるはずだ。以後、古の風習に伝わる「自由騎士」と名乗るがよい。
「自由騎士」とは、主君ではなく、己に誓いを立てた者のことだ。冒険者の貴公にとって、ふさわしい呼称だろう？
騎士となった貴公に、「ナイトの証」を授けよう。このクリスタルには、歴代の騎士の記憶が刻まれている。
騎士道を歩む者にとって、導きとなるものだ。
……なんと、「ナイトの証」に似た石を私へ渡すよう、見知らぬ「自由騎士」から手渡されたと？　どれ、よく見せてみたまえ……。

ジェンリンス ： おのれ……愚弄しおって……。この「不思議なクリスタル」は確かに「ナイトの証」。……実は「銀冑団」から奪われたものなのだ。
この証を貴公に託したという老いた自由騎士こそ……　私が、その行方を追っている逆賊。
ウルダハ王家への忠義と、近衛騎士の誓約を踏みにじり、「銀冑団」の威信を地の底へと落としめた張本人だ。
……それが、よくも騎士道精神を偉そうに語ったものだ。
そもそも証は、近衛騎士に任じられる際、総長より贈られるもの……。それを、部外者が手渡すなど……ゆゆしき事態！
……この証は、責任もって私が処分しよう。貴公が「ナイト」として剣を抜くときは、必ずや、私が授けた証を身につけるのだぞ。
……貴公には、くだらぬことと思えるやもしれぬな？　だが、長年培われた儀礼や伝統こそ、遵守せねばならぬ。
今や「銀冑団」の騎士さえ、この精神を忘れがちだ……
この難境に、私が「銀冑団」総長に任じられたのも運命。女王陛下に忠誠を誓った騎士として、この大役を果たし、
失われた「銀冑団」の威信を取り戻さねばならぬ。
剣の腕に優れ、なにより逆賊と面識ある貴公には、いずれ逆賊捕縛の大任を任せることになろう。
そのときまで、貴公は任に備え、剣の腕により磨きをかけてもらいたい。これが騎士を名乗る者の務めであるぞ。

# 慕いし背中

ジェンリンス ： 「自由騎士」と名乗るようになり、周囲の反応は、いかがかね？
騎士の本分は、剣のみにあらず。常に自らを律して正義を行い、人としての模範を示さねばならぬ。
かつて「銀胄団」の近衛騎士は、市街も巡回していた。その隊列は、庶民の尊敬と感謝を集めたものだ。
特に、「前総長」は近衛騎士の鑑と称えられていた。
幼少のみぎり、私は前総長と出会ったことがある。市場で父とはぐれ、裏通りで乱闘にまきこまれてな。
泥酔した狩人が放った矢が、私へ飛んできた。
この窮地を救ってくれたのが、巡回中の前総長だ。見事な剣さばきで私を救い、父の礼も辞して立ち去った。
その頼もしい後ろ姿……忘れようにも、忘れられぬ……。
以来、私は騎士に憧れ、剣の稽古に打ちこんだ。ついに念願かない、「銀胄団」に入ってからも、
前総長に追いつかんと、修練に励んだ……。
こうして、前総長の背中を追い続けた私が気づけば総長の座に……なんとも皮肉な話だ。
……だが、今や「銀胄団」の威信も完全に地に落ちた。
原因は、数多ある。……その中でも特に、「聖剣」の喪失が打撃であった。
「聖剣」とは、初代総長がウルダハ王家から授かった宝剣。王家への忠誠の象徴として代々、総長に受け継がれてきた。
いわば、銀胄団総長の証……。
この「聖剣」を、逆賊が奪い去ったのだ！！　それにより、王家からの信頼は揺らぎ……　「銀胄団」の失態は、庶民の失望を深めた。
この状況を打開するには、「聖剣」奪還が急務。しかし、たるんだ近衛騎士では、結果は望めぬ。
事の成就には、精鋭を集めて任にあたる必要がある。
貴公には特に期待しているゆえ、大任に備えて新たな戦技を伝授しよう。魔物との戦いの中で、技の勘所を掴んでみせよ。
これには、予想外の動きを見せる敵の討伐が最適だ。外地ラノシア「隠者の庵」付近に我らが設置した、
「鉄製のかがり」に火をともしてみよ。
その火に引き寄せられた魔猿を、すべて討伐するのが今回の試練だ。見事、試練を達成したら、私まで報告するように。

ジェンリンス ： 「ナイトの証」が輝きを増している……。戦技を体得したようだな。引き続き、任に備えて鍛錬に励んでおけ。
しかし……逆賊の行方については、有力な情報を掴めないでいる。動きがあり次第、貴公にも知らせよう。

# 失望と怒りと責任と

ジェンリンス ： よくぞ来てくれた。貴公の活躍は、耳にしている。貴公のごとく騎士道を貫く者は多くない。同じ騎士として、誇りに思う。
そんな貴公に、私も信頼をもって応えねばな。……そろそろ真実を明かすべきであろう。内輪の恥をさらすようで情けないが……。
以前に話した「聖剣」を奪った逆賊は覚えているな？　その逆賊の名はソルクザギル……　「銀胄団」の前総長だった男なのだ。
私が憧れ、私を騎士の道へ導いた人物。前総長こそ、騎士の中の騎士と信じていたのだが……　彼は変わってしまった……。
砂蠍衆の共和派との政争に敗れ、兵団の権威が失墜すると、総長の座が危ういと察したソルクザギルは、
「聖剣」を持ち出し、姿を消した……。
王家との誓約を投げ出すなど、騎士として許されぬ。この汚名をそそぎ、「銀胄団」の威信を取り戻すのが、総長たるわが使命。
そのために、かつての師を斬らねばならぬなら、喜んで斬ろう……。難敵だが、相討ち覚悟で討ち取る自信はある。
だが、奴を誅殺したところで、兵団の恥辱を闇に葬ったと断じられては、かなわぬ。公正な裁きの場で証言させるため、生け捕らねば。
しかし、相手は30年以上も総長を務めた猛者。私と貴公が組んだとて、逆賊を捕らえるのは至難の業。
ゆえに、貴公には、さらなる力をつけてもらいたい。
東ザナラーンの「ユグラム川」に我らが設置した「鉄製のかがり」に火をともせ。その火に引き寄せられた怪魚を討伐し、私に報告せよ。
熾烈な生存競争を生き抜いた怪魚は、まさに難敵。戦技の心得を胸に刻み、戦いの中で勘所を掴むのだ！
苦しい戦いだろうが、戦技の勘所を探り続ければ、クリスタルが貴公を導くであろう。

ジェンリンス ： 「ナイトの証」が輝きを増している……　戦技を体得したようだな。引き続き、任に備えて鍛錬に励んでおけ。
貴公が、ここまで力をつけたのならば、いよいよ本格的に逆賊の捕縛計画を実行しよう。その時は、貴公の力をぜひとも貸してほしい。

# 交わる毒心

ジェンリンス ： 貴公を待っていた、話さねばならぬことがあるのだ。……これまで、逆賊の足取りを探るため、
あらゆる記録を調べてきた結果、ある事実を掴んだ。
逆賊ソルクザギルの総長就任に前後して、当時の名だたる近衛騎士たちが、相次ぎ命を落としていた。
……しかし、兵団の記録には、死因が記されていなかった。
そこで、秘密裏に隠された治療記録を確認した。宿舎での突然死など、死因は様々だったが……
いずれも毒に起因している形跡があったのだ。
やり口から、「見えざる毒尾」が関与した可能性が高い。砂蠍衆の共和派が雇う暗殺者集団で、痕跡を残さぬため、
巷では、実在しないと噂されるほど有能だ……。
しかし、それほど凄腕の刺客が暗躍したとしても、簡単に名だたる騎士を葬ることなどできようか？
そうは思えぬ……内部からの助力がない限りは、な。
では、彼らの死で、もっとも得をしたのは誰か？　次期総長と目された騎士たちが、軒並み没して、
異例の若さで総長に就いた者がいた……ソルクザギルだ。
そもそも、砂蠍衆の共和派の狙いは、「銀胄団」の実力者を消して、兵団を弱体化すること。
ひいては王家の守りと威信を弱めることにある。
にもかかわらず、なぜ、ソルクザギルは30年にわたり、共和派の毒尾から逃れ、総長であり続けたのか……？
そう、ソルクザギルこそ、内通者だったのだ。
この逆賊の居所……必ずや突き止めてみせる。その間に貴公は、「銀胄団」に伝わる「白銀の騎士甲冑」を揃えてほしい。
この騎士甲冑は、実力で獲得するのが「銀胄団」の伝統。南ザナラーンの「カルン埋没寺院」に甲冑を置いてきた。
全部で4か所……これを、すべて手に入れてみせよ。

ジェンリンス ： 見事に「白銀の騎士甲冑」を集めたか。これを成し遂げた貴公の加勢があれば、逆賊ソルクザギルも討ち取れよう。
そう、ついに逆賊と対峙するときが来た。奴の情報が入り、仲介者を通して接触したところ、
向こうから「聖剣」返還の交渉を持ちかけてきたのだ。
この接触は、秘密裏に進めなければならん。ゆえに、再度、貴公の覚悟を問う。交渉の場に、共に来てくれるなら、再度声をかけてくれ。

# 交わらぬ心慮

ジェンリンス ： よくぞ、了承してくれた。「銀胄団」でもない貴公の協力に、心から感謝する。
ソルクザギルは、この「聖剣」返還交渉を砂蠍衆の共和派には伏せていると、いっているが……　奸計の可能性もぬぐえぬ。
だとしても、ソルクザギルとまみえるのは、「銀胄団」の威信回復の、またとない好機。
奴が「聖剣」を差し出し、裁きを受けると言うなら良し。そうでなければ、力ずくで捕縛し、女王陛下の御前に引きずり出すまで！
交渉の場は、南ザナラーンの「忘れられたオアシス」にほど近い砂漠。目印として剣を突き刺してあるという。
ソルクザギルの行動を知れば、共和派が妨害してくる恐れもある。ゆえに、交渉は秘密裏に進めなければならぬ。
目立たぬよう、別行動をとり、現地で合流しよう。貴公の準備が整い次第、速やかに出発してくれ。

ジェンリンス ： ……よくもぬけぬけと、ここへ来られたものだ、内通者め！
貴様が逆賊、そして砂蠍衆の共和派と通じているのを、私が気づかぬとでも思ったか？
観念しろ、◇◇◇。貴様が逆賊ソルクザギルの手の者であること、「銀胄団」の同志が突きとめ、私に伝えてくれたのだ。
さあ、「聖剣」と逆賊の行方について、あらいざらい吐いてもらおう。
ふん……嘘だとでも言いたいか？　ここに集いし我が同志に限って、裏切りなど存在せぬ。
我らの覚悟は貴様らとは違うのだ……なあ、同志よ！
……私が、甘かったのだ。貴様は逆賊から「ナイトの証」を受け取った。その時点で、疑ってかかっておくべきだったのだ。
これより、裏切り者◇◇◇に裁きを下す。自由騎士とはいえ、騎士を志した貴様だ……　せめてもの情けをくれてやろう。
その恥ずべき罪を衆目にさらすことなく、今ここで砂塵に散るがいいっ！！

秋水のジェンリンス ： 銀胄団への背徳行為は、ウルダハ王家への反逆に等しい！　この大罪、その身で償ってもらうおう！
秋水のジェンリンス ： 銀胄団の騎士ともあろう者が、情けないっ！　騎士道を逸脱した者が、ナイトの戦技を最もよく使うとはっ！
秋水のジェンリンス ： 貴様の供述が、「銀胄団」の権威回復の足がかり！　総長の使命にかけて、必ずや貴様を討ち取る！

ジェンリンス ： なぜ貴様ごときに……。剣の腕ならば……私の方が数段、上のはず……。

ソルクザギル ： お前の視野が狭いからだ、ジェンリンス！
この自由騎士を見習え……。ナイトが守るべきは、権威でも「銀胄団」でもない！
今のは「見えざる毒尾」。砂蠍衆の共和派が仕向けた刺客だ。お前は、きゃつらの妖計にはめられたのだよ。

ジェンリンス ： 何をっ……！？　共和派と通じてるのは、貴様だろうが……！？

ソルクザギル ： まだ気づかぬか？　まっすぐすぎるのだ、現総長殿は……。それが、お前の良さでもあるが……。
お前に提供されていた情報は、すべて共和派の工作だ。お前が連れていた騎士たちも共和派の犬……
共和派に、いいように踊らされていたのは、お前自身だ。だが、お前は「見えざる毒尾」の暗躍に気づいてしまった。
それで、共和派がお前を消しにかかってきたのだ。

ジェンリンス ： そんな……。では貴方は……逆賊では……ないのです……ね。よかっ……た……。

ソルクザギル ： 死にぞこないは、だまっていろ。
総長殿は、わしが介抱しておく。心配めさるな。これしきの傷、すぐに癒えよう。
立派な自由騎士となったな。すでに己の「騎士道」を見極めたと見える。……まだ自覚しておらぬか？　まあ、じき自ずと悟ろう。
これからも総長殿を頼むぞ！　貴君が導いてやってくれ！

ジェンリンス ： よくぞ戻ってくれた……貴公には、大きな迷惑をかけた。騙されていたとはいえ、貴公にあらぬ罪を着せ、
剣を向けてしまった無礼……どうか許してほしい。
怪我は痛むが、大した問題ではない。ソルクザギル様が逆賊ではなかったことが、なにより喜ばしい！
やはり、私が慕ったソルクザギル様の騎士道精神は、本物だったのだ！
ソルクザギル様には及ばぬが、私とて総長の座につく身。あの方に代わり、兵団に威信を取り戻すべく、
共和派へ反撃に打って出る……！
なに、心配はいらぬ。奴らとて、「銀青団」の本営に刺客を送り込むほどの無茶はするまい。
ここは焦らず、療養しながら、反撃の機会をうかがう。その時まで、貴公も腕を磨いておいてくれ。

# かざすは騎士の聖剣

ジェンリンス ： 来てくれたか、出陣前に貴公と会えてよかった。貴公には多大なる協力を受けながら、迷惑をかけた。
すべてを話し、礼をせねばと思っていたのだ。
先日の一件後、ソルクザギル様が真相を明かされた。あの方はこれまで、女王陛下と「銀胄団」のため、
たったおひとりで共和派と戦っておられたのだ。
身を隠してから、私と接触を試みられたそうだが……　我が周囲は、砂蠍衆の共和派に買収された者で固められ、
ソルクザギル様といえど、近づけなかったようだ。
そやつらが、ソルクザギル様が逆賊であると吹き込み、あの方を追うよう、私を仕向けていたのだ。
私こそ、共和派の操り人形だったのだな……。
しかし、私と貴公が「見えざる毒尾」の暗躍に気づいた。そこで、共和派がわれらを消しにかかってきたのだ。
「交渉」というエサで、僻地へおびき出してな。
そもそも、ソルクザギル様が逆賊のはずがない！　わかっていながら、周囲の声に惑わされた……。兵団の権威回復を焦った、私の失態だ。
総長の権威と重責に負け、いつのまにか王家ではなく、「銀胄団」を守ることが目的となっていた。
そう、私は騎士道を見失っていたのだ……。
これを案じ、ソルクザギル様は貴公に証を託されたのだ。「権威に縛られぬ冒険者の生き様を見習え」という、訓告を込めて、な。
なのに、その真意を見逃すとは……　我ながら、なんたる視野狭窄！
だいたい、私が総長に据えられたのも共和派の工作。忠義に縛られ、融通が利かぬ若造が総長となれば、
容易に兵団を弱体化できると踏んだのだろう。
……かように、私は謀略で仕立てられた、まがい物の総長。だが、総長と呼ばれる以上、私が落とし前をつけねば。
それが、我が騎士道というもの。
私は、クルザス中央高地「スノークローク大氷壁」へ逃げ、身を隠すと部下に伝える。
共和派のことだ……これを聞きつけ、真実に近づきすぎた私を消しにかかってくるはず……。
これを返り討ちにし、反撃の狼煙とする！
貴公に加勢を依頼したいところだが、今回ばかりは、決して来てはならぬ。……貴公も、共和派に命を狙われているのだからな。
もちろん、単独で挑む危険は百も承知。だが、私とてソルクザギル様に鍛えられている。不意を打たれぬ限り、勝機は必ずある。
貴公を、我らの政争に巻き込んでしまい申し訳なかった。これからも、互いに己の騎士道を貫こう！
そうそう……「ソルクザギル」様も、貴公に話があるそうだ。彼が示した密会の場は、中央ザナラーン……。
詳しい場所は、貴公の地図に記しておこう。

ソルクザギル ： よく来てくれた、早速、本題に入ろう。ジェンリンスから、計画は聞いただろう？　あやつには、来るなと止められたが……。
わしは、我が騎士道に従う。貴君も、貴君の騎士道に従うのならば、クルザス中央高地の「スノークローク大氷壁」に来たまえ。

ジェンリンス ： ……貴公まで！？　あれほど来るなと言ったというのに！
ソルクザギル様といい……　なぜ、皆、自ら危険へ飛び込むようなマネを……！？

ソルクザギル ： それこそ騎士というものだ、ジェンリンス。
共和派が「見えざる毒尾」を仕向けてこようとも、己の正義に忠実であること……。これぞ騎士道、ナイトの「聖剣」なり！
かの騎士もまた……　自由という名の「聖剣」をふるう、真のナイトなのだ。
さあ、誇り高き騎士たちよ、己の「聖剣」を振るえ！　この妖異を呼び寄せている「見えざる毒尾」を倒し、我らが道を切り拓くぞ！

秋水のジェンリンス ： ヴォイドの妖異を召喚するとは……　共和派も、我らを消すのに必死と見える。
忠勇のソルクザギル ： 蠍の毒を振り払い、我らの騎士道を切り拓こうぞ！
秋水のジェンリンス ： どうやら、退けることができたようですが……　敵は、共和派……この程度で済むとは思えません。
忠勇のソルクザギル ： うむ、ヴォイドの妖異を召喚した者が、必ずや、付近で様子を伺っているはず。
忠勇のソルクザギル ： その術者こそ、此度の計画を指揮する頭目のはず……　これを探し出し、仕留めるのだ！
秋水のジェンリンス ： ソルクザギル様……この魔法陣は一体……！？
忠勇のソルクザギル ： これは……攻撃魔法の効果を増幅する魔法陣……
忠勇のソルクザギル ： 微かに火属性のエーテルが乱れておる……。
忠勇のソルクザギル ： 敵は、上かっ！　ふたりとも、今すぐ、その場から離れよ！！
秋水のジェンリンス ： くっ……やはり術者が潜んでいたか！！
毒尾のアサシンマスター ： エーテルの乱れを察知し、身をかわすとはさすがは銀胄団総長、一線を退いてなお健在……
毒尾のアサシンマスター ： …だが、それもほんの少し、寿命がのびたにすぎません。すぐに死んでもらいましょう！
忠勇のソルクザギル ： 「見えざる毒尾」が、魔法陣の扱いに長けた術者まで擁しているとは……。
忠勇のソルクザギル ： ジェンリンス！　◇◇◇！　心せよ、魔法陣の効果は油断ならぬぞ！
秋水のジェンリンス ： 魔法陣から、魔物が！？　このままでは、我らといえ持ちこたえられんぞ！
忠勇のソルクザギル ： ジェンリンス！　◇◇◇！　魔法陣を破壊せよ！
忠勇のソルクザギル ： 魔物の召喚を食い止めるのだ！　お前たちを阻む雑魚どもは、すべてわしが引き受けるっ！！

ソルクザギル ： 見事……。臆することなく、ここへ駆けつけ己の「聖剣」を振るう……。
己の「騎士道」を信じて突き進む姿は、周囲をも導く力がある。
ジェンリンスを縛る枷をも断った、貴君の「聖剣」……　今後、どこまで研ぎ澄まされるのか……実に楽しみだ。
これで、しばらくは共和派の連中も、暗殺などという汚い手を使うことはなかろう。
ジェンリンス……後のことは任せたぞ。

ジェンリンス ： ソルクザギル様！　いえ、総長殿！　「銀胄団」にお戻りください！
総長の座は……私には、まだ荷が重すぎます！

ソルクザギル ： 共和派が奪い隠した、見てくれだけの「聖剣」などなくとも、お前の心の内には、お前だけの「聖剣」があろう？
それを振るい、「銀胄団」を正しく導くのだ。この自由騎士が、お前を導いたようにな。
経緯はどうあれ、一度「銀胄団」を離れた者は戻れぬのが掟。……わしは己の騎士道を邁進する。これぞ、我が「聖剣」……。

ジェンリンス ： ……私は、私の「聖剣」をかかげ、いつまでも追い続けます……貴方の背中を……。
貴公が助けにきてくれたこと、心から感謝する。私は先に戻るが、後ほど、我がもとへ寄ってくれ。礼を用意して、待っているぞ。

ジェンリンス ： 来てくれたか、待っていたぞ。一連の騒動では、何から何まで世話になった。
己の正義……つまり「騎士道」に従い、弱き者を守ること。この誓いこそ、騎士の「聖剣」……。
貴公は常に、この「聖剣」を振るう騎士だったのだな。どうりで、私が貴公に敗れたわけだ……。
「銀胄団」総長の証たる「聖剣」……。これの行方は、いまだ知れぬが……　我が内の「聖剣」を掲げ、兵団を再興してみせる。
ソルクザギル様は旅立たれたが……忠義に厚いお方だ。おそらく、王家への忠誠の証である、
失われた「聖剣」の行方を追う旅でもあるのだろう……。
そして私は、ウルダハを守る「銀胄団」の近衛騎士として、貴公は、エオルゼアを守る自由騎士として……。
進む道は皆、それぞれ異なるが、これからも互いに己の「聖剣」を磨きあおう！
……おっと！　大切な物を忘れるところであった。どうか、私からの感謝のしるしとして、
この「白銀の騎士甲冑」を受け取ってほしい。
これぞ、「銀胄団」に長らく伝わる聖なる鎧。本来ならば正式に近衛騎士となり、多くの武勲と、
功績を挙げた者にのみ、授けられる仕来たりだが……。
我が心の「騎士道」が貴公へ渡せと、せっつくのでな。なに、決められた条件に縛られていては、
未来永劫、ふさわしい騎士へ渡らない。
……それでは、せっかくの甲冑も浮かばれまい？
ふっはははは！　くれぐれも、このことは内密に頼むぞ、自由騎士殿！

# 登場人物

ジェンリンス：銀胄団総長

ソルクザギル：前銀胄団総長

ルルツ：剣術士ギルド受付